

日立市に住む男女の生活と意識の調査

1 調査の目的

男女共同参画に関する男女それぞれの意識と実態を明らかにするとともに、令和8年度に策定する次期「ひたち男女共同参画計画」の基礎資料とする。

2 調査の概要

| | |
|----------|---------------------------------------------------|
| (1) 対象者 | 住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の男女各1,000人 |
| (2) 期間 | 令和7年8月20日(郵送)～9月17日(回収×切) |
| (3) 回収結果 | ア 有効回答数 872人 (男性 367人、女性 486人、回答しない 8人、不明 11人) |
| | イ 有効回答率 43.6% |

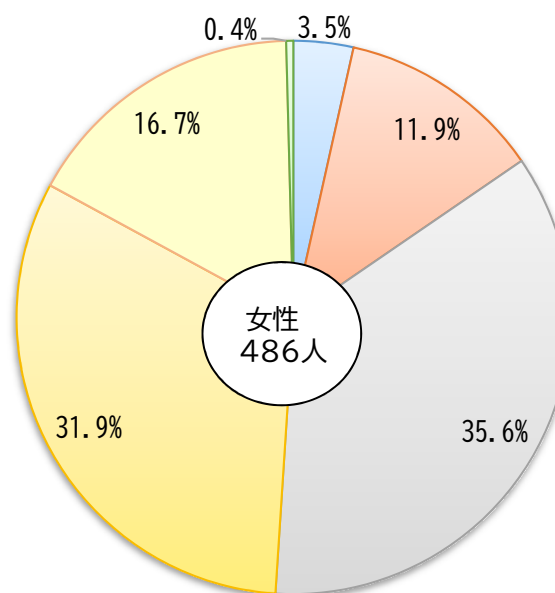
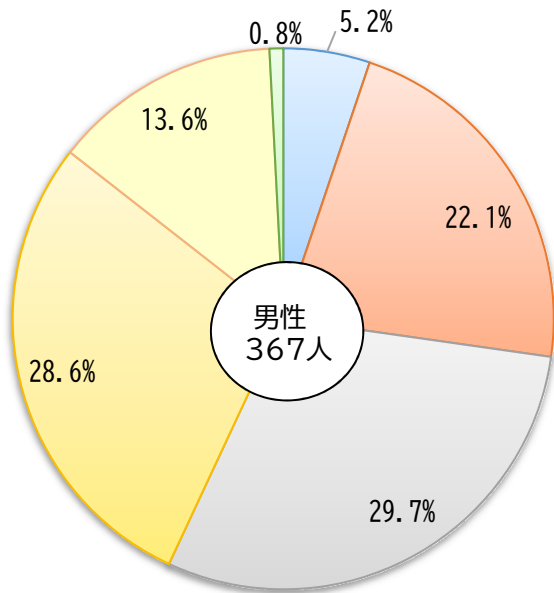
3 調査の内容

| | | |
|-----|--------------|-----------------------------|
| (1) | 男女平等に関する意識 | 性別や年齢による平等に対する意識の傾向を知る。 |
| (2) | 家庭生活・地域活動 | 家庭や地域での役割分担や、それに伴う課題などを知る。 |
| (3) | 仕事・職業 | 働き方や仕事への考え方を知る。 |
| (4) | ワーク・ライフ・バランス | 仕事と生活のバランスについての意識や理想、課題を知る。 |
| (5) | 相談・支援ニーズ | 様々な生きづらさについて、どんな支援が必要かを知る。 |
| (6) | 市政(市の役割) | 市が行う男女共同参画の取組に対する意見や要望を知る。 |

(1) 男女平等に関する意識について

「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて

本編:P11



- 賛成
- どちらかといえば賛成
- どちらかといえば反対
- 反対
- わからない
- 未回答

「反対」「どちらかといえば反対」と考える人の割合は過半数を占め、特に女性で割合が高い傾向にある。
 経年で比較すると、男女とも性別役割分担意識の変化が見られる。これは、全国値と比較しても同じような水準にあると言える。

| | 性別 | H27 | | R2 | | R7 |
|-------------------|----|-------|---|-------|---|-------|
| 反対・ どちらかといえば反対 | 男性 | 41.4% | ⇒ | 50.9% | ⇒ | 58.3% |
| | 女性 | 48.7% | ⇒ | 60.0% | ⇒ | 67.5% |

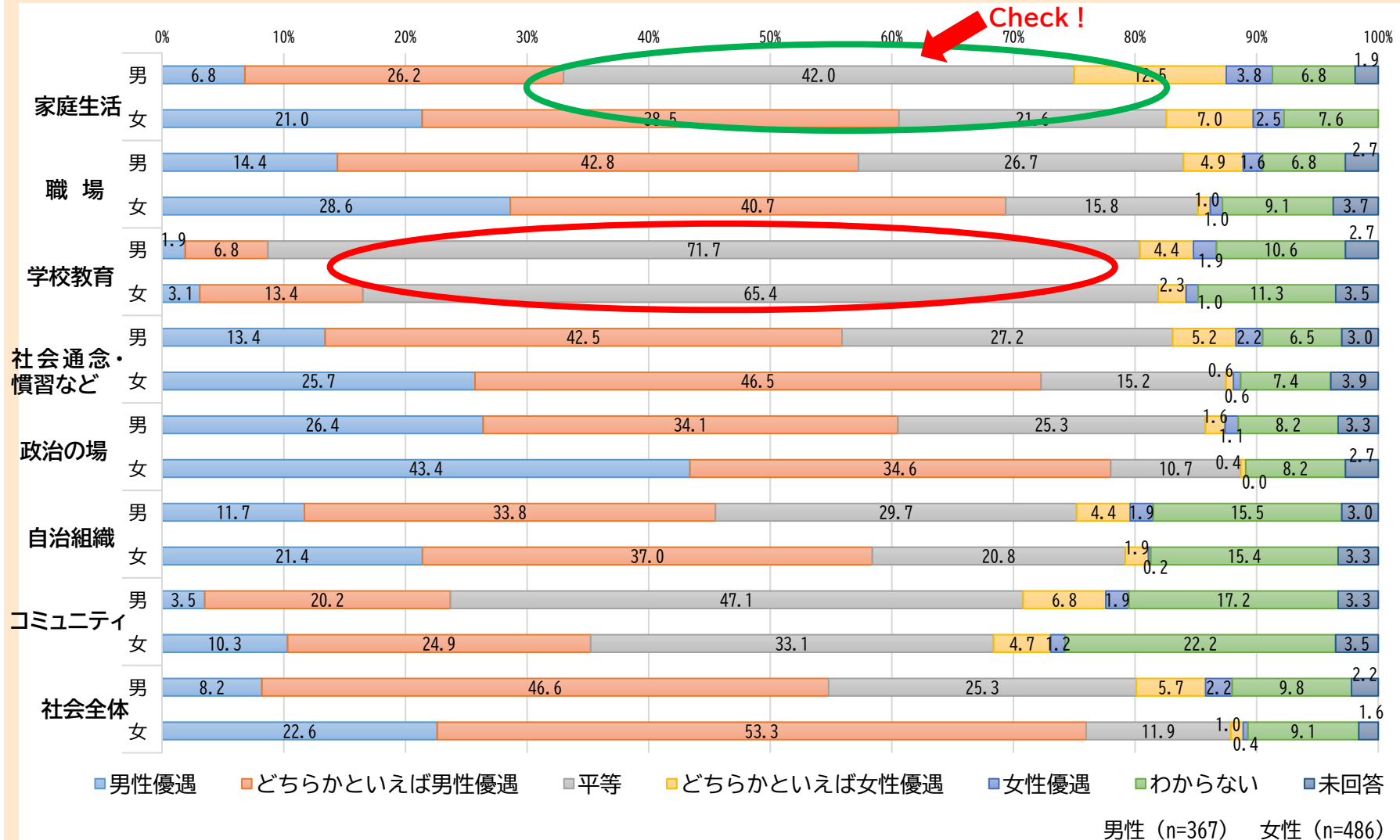
【全国:男女共同参画社会に関する世論調査】男性 59.7%、女性 69.2% (R6 内閣府)

(1) 男女平等に関する意識について

男女の地位の平等に関する意識

「学校教育」での平等感は男女とも高い一方、「職場」「社会通念・慣習など」「政治の場」に対する男性優遇の意識は男女とも高い傾向にある。
 また、「家庭生活」や「社会全体」の平等感は男女差が大きく、置かれている状況の違いが、男女で異なる認識として表れていることがうかがえる。

本編:P13

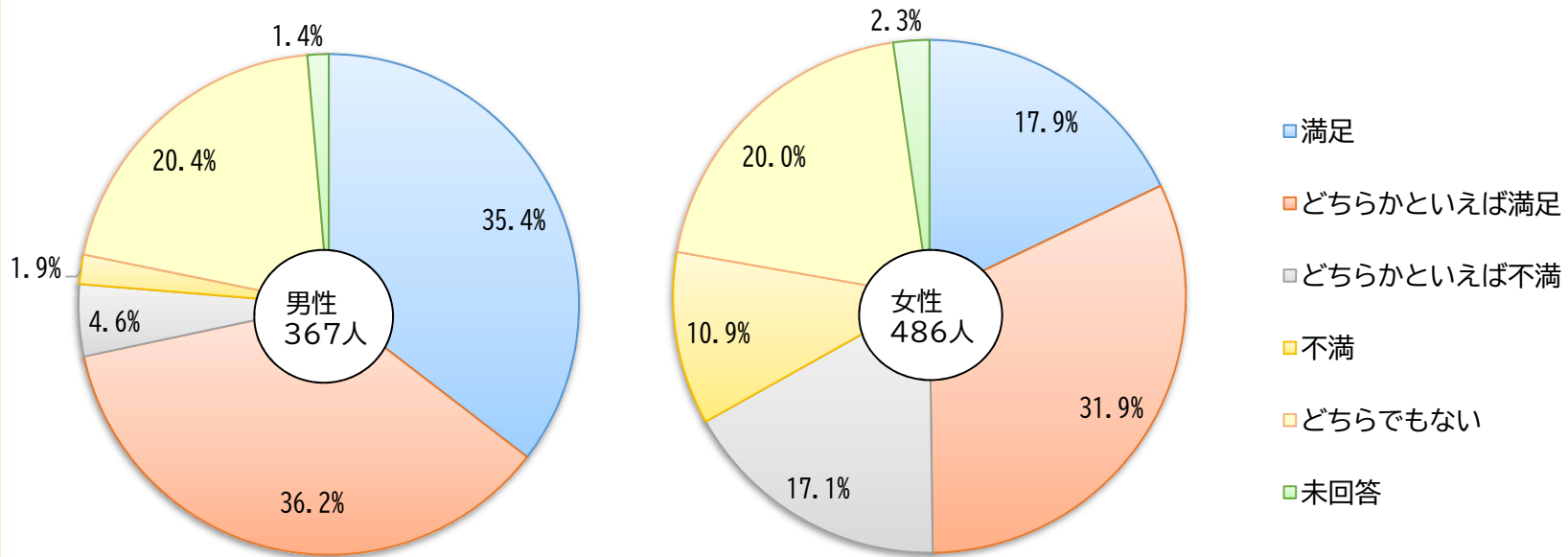


(2) 家庭生活・地域活動について

家事分担に対する満足感

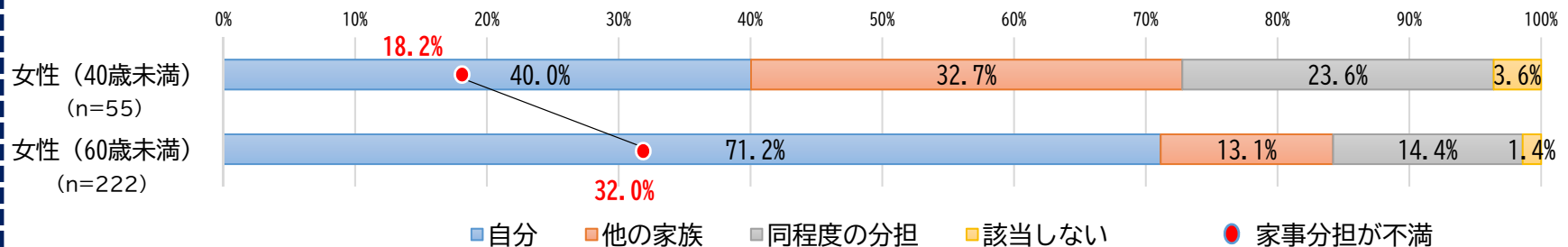
本編:P15

家事等の主な担当者については、家事・子育ては女性、手続き・契約や家計収入は男性が担う割合が高いなど、分野ごとに役割に性差が見られる(本編:P14)。分担に対する満足感は男性で高い一方、女性では評価が分かれる傾向にある。参考値ではあるが、40歳未満の女性では家族で分担する傾向が相対的に高く、不満意識も低い傾向が見られる。



【参考】

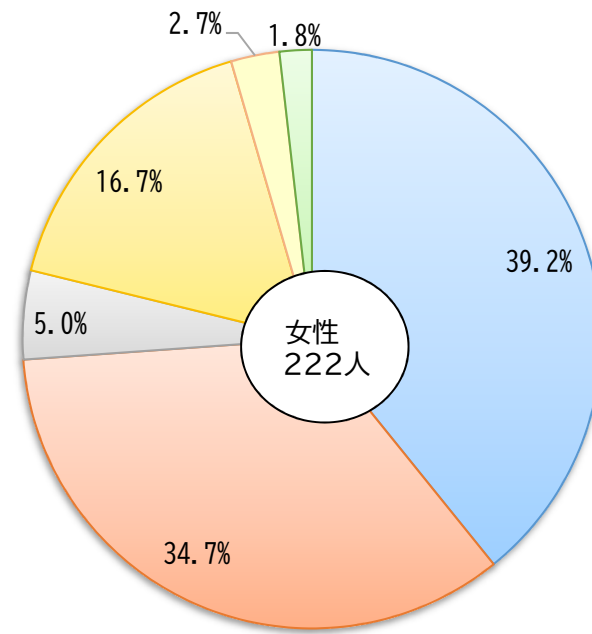
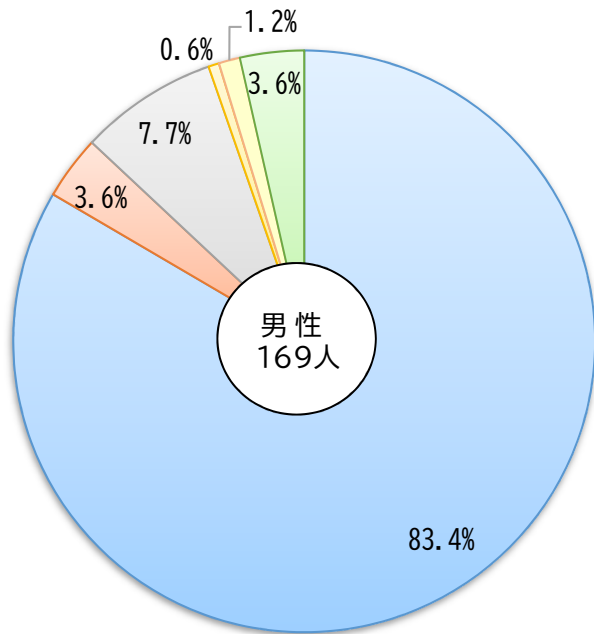
家事（食事の準備・洗濯など）の主な担当者



(3) 仕事・職業について

現在の就業状況(60歳未満)

本編:P6



- 正規雇用者
- 非正規雇用者
- 自営業・フリーランス・家族従事者
- 専業主婦・専業主夫
- 学生
- 無職

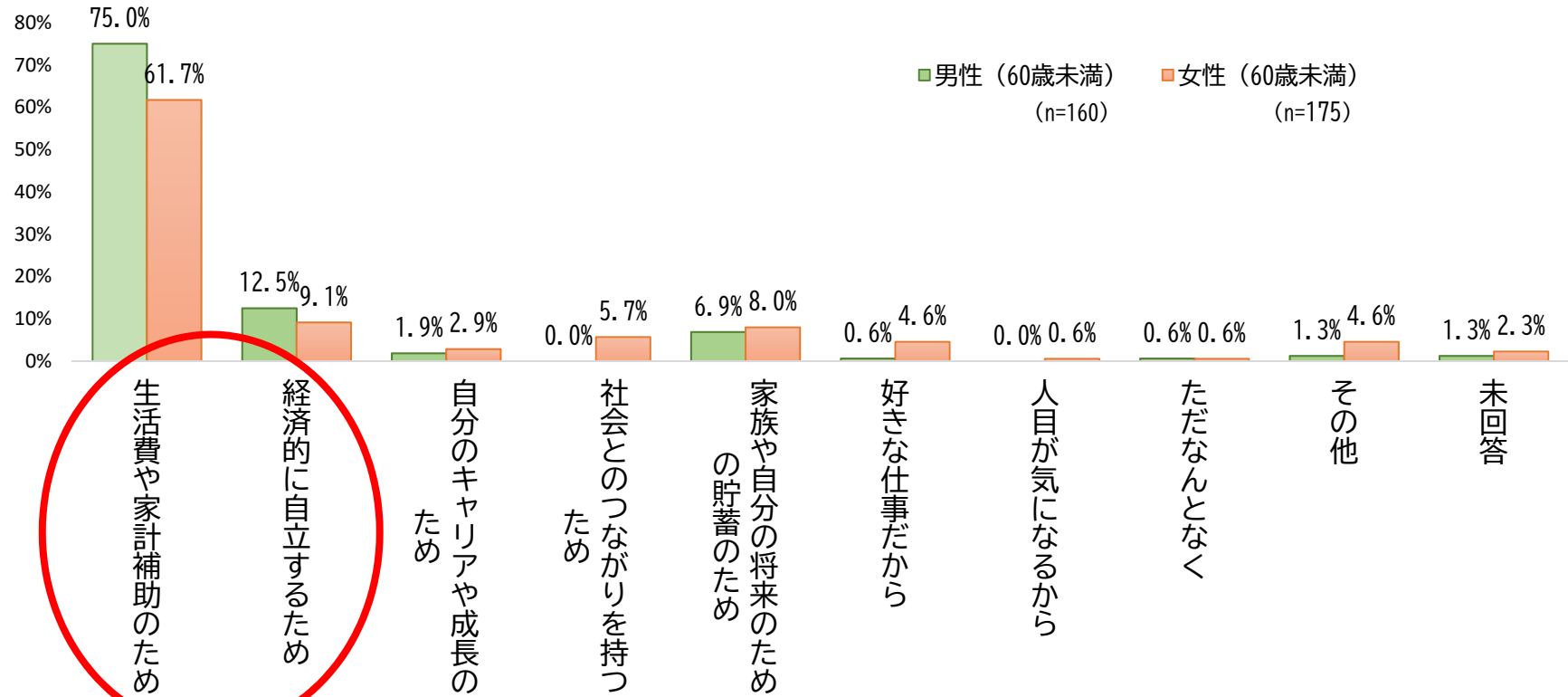
| | 性別 | R2 | | R7 |
|--------------------------|----|-------|---|-------|
| 回答者の就業状況 正規雇用者(60歳未満) | 男性 | 75.1% | ⇒ | 83.4% |
| | 女性 | 34.2% | ⇒ | 39.2% |

正規雇用の割合は男性が女性を上回るものの、前回調査より男女とも増加傾向が見られる。一方で女性は非正規雇用の割合が相対的に高く、特に60歳未満でその傾向が強く見られる。

(3) 仕事・職業について

仕事をしている主な理由(60歳未満)

本編:P19



仕事をしている理由を見ると、男女とも「生活費や家計補助のため」が最多であり、「経済的に自立するため」を含め、就労の主な目的は経済的理由にあることがうかがえる。その傾向は60歳未満で相対的に強く見られる。

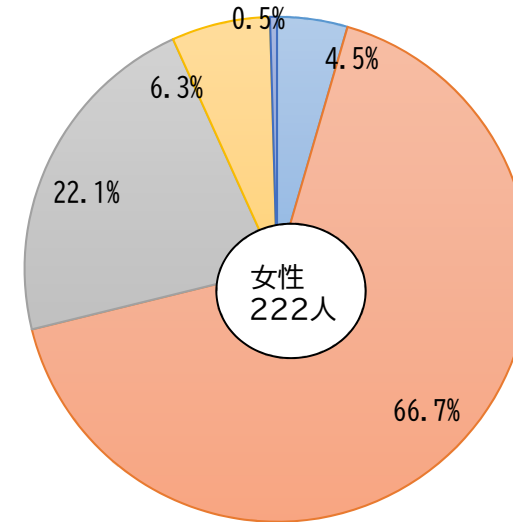
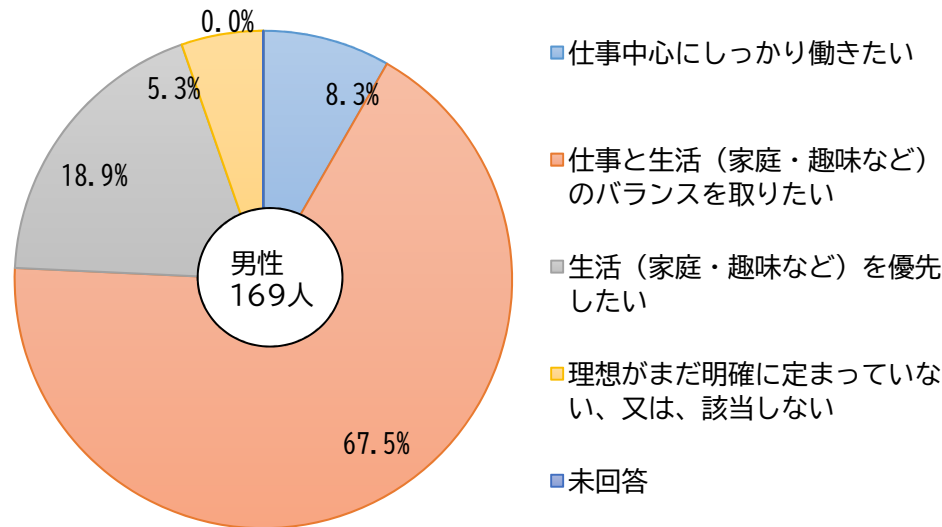
一方、女性では「社会とのつながりを持つため」「好きな仕事だから」といった回答も一定数見られ、就労働機が経済面にとどまらない多様な側面を有している傾向がうかがえる。

(4) ワーク・ライフ・バランス

理想とする働き方(60歳未満)

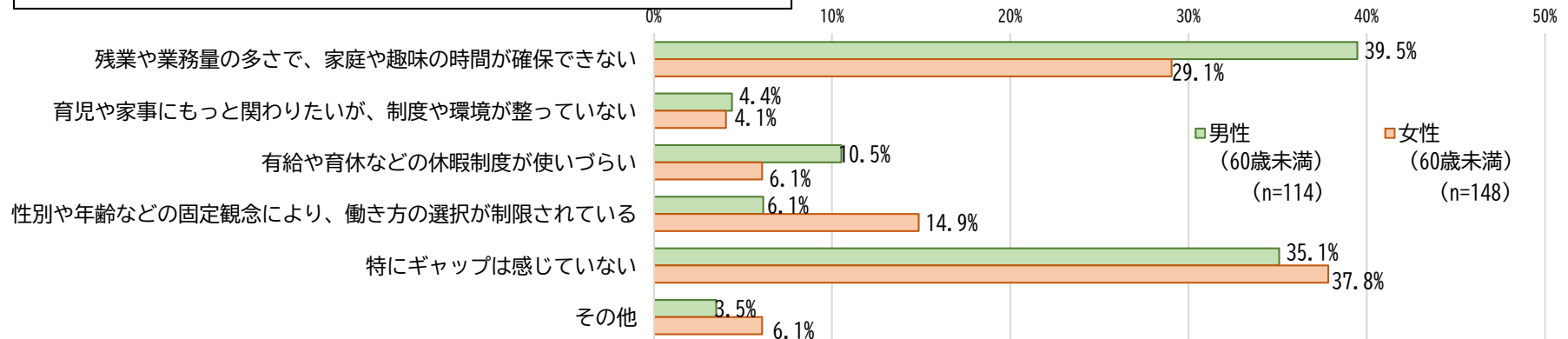
男女とも仕事と生活のバランスを重視する回答が多く、仕事中心とする回答は少数にとどまる。一方、理想とのギャップとしては、残業等により時間の確保が難しいとする回答のほか、女性では固定観念が働き方に影響するとする回答も一定程度見られる。

本編:P22



「バランス重視」を選んだ人のギャップや課題(60歳未満)

【参考】 本編:P24

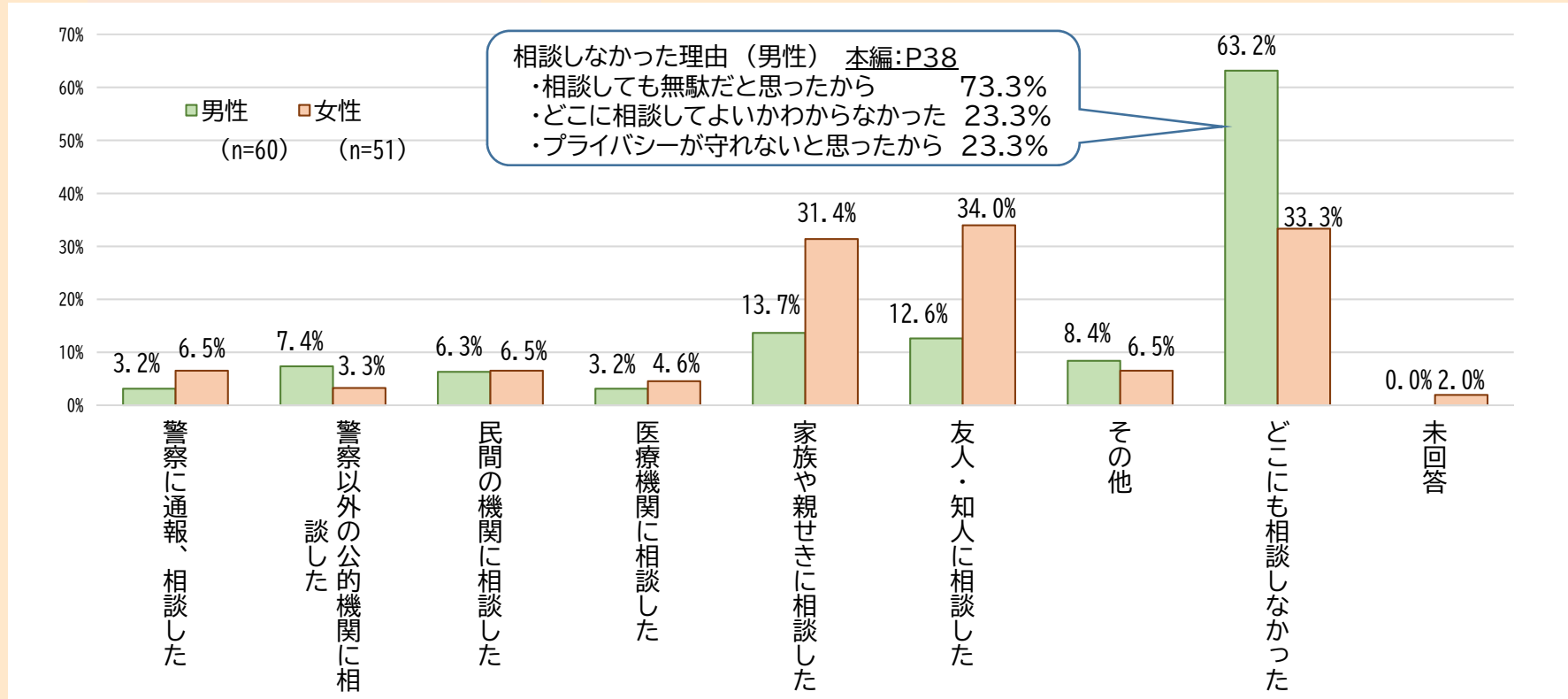


(5) 相談・支援ニーズについて

「どこにも相談しなかった」人の割合は男女間で差があり、男性で高い。女性は身近な人へ相談する傾向がうかがえる。
一方、公的機関の利用は男女とも低く、相談行動に大きな差は見られない。

困難な状況に直面した際の相談先

本編:P37



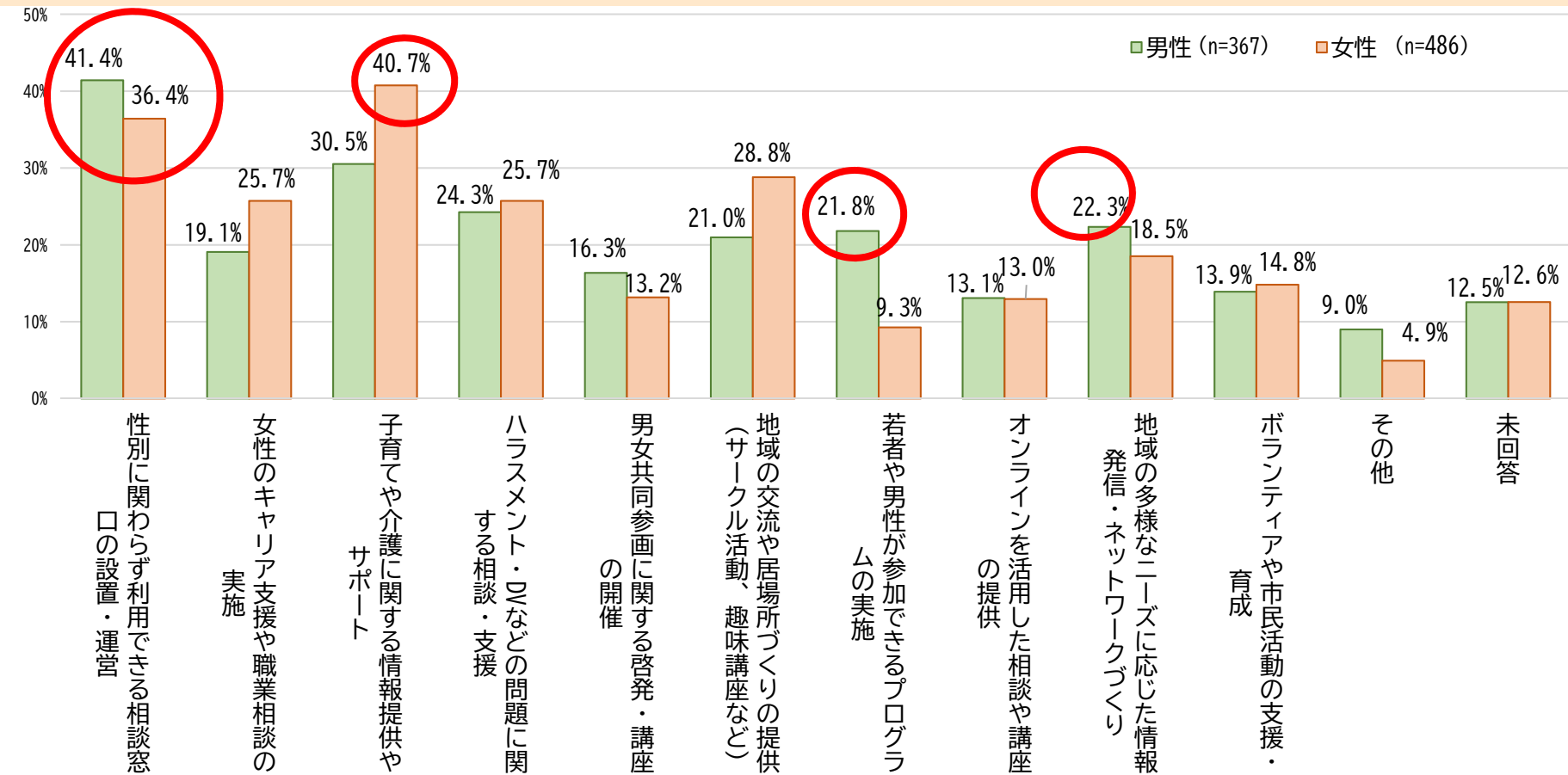
相談しなかった理由 (男性) 本編:P38
 ・相談しても無駄だと思ったから 73.3%
 ・どこに相談してよいかわからなかった 23.3%
 ・プライバシーが守れないと思ったから 23.3%

| | 性別 | H27 | | R2 | | R7 |
|-------------|----|-------|---|-------|---|-------|
| どこにも相談しなかった | 男性 | 78.8% | ⇒ | 75.9% | ⇒ | 63.2% |
| | 女性 | 53.0% | ⇒ | 60.3% | ⇒ | 33.3% |

(6) 市政(市の役割)について

「らぽーるひたち(女性センター)」に期待する役割

本編:P44

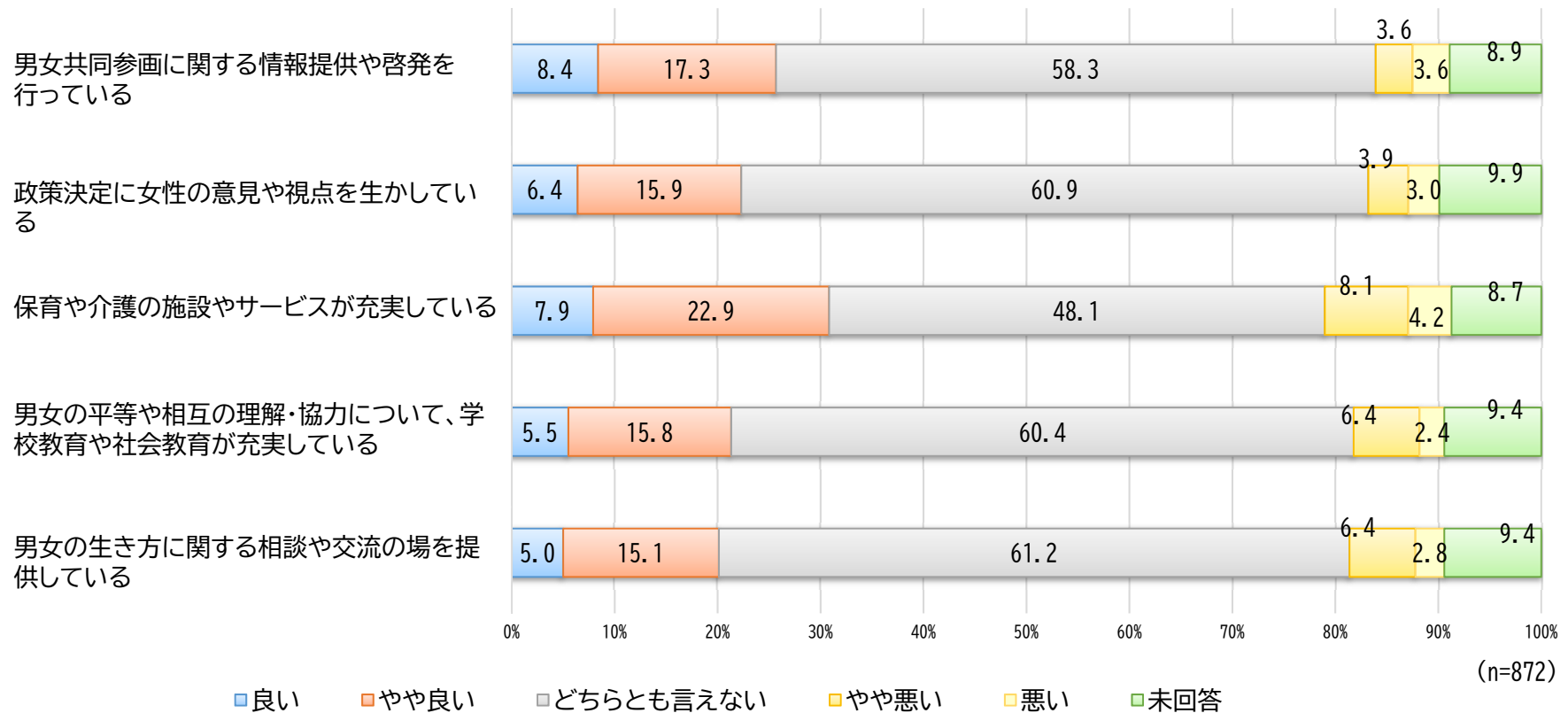


男女とも性別を問わず利用できる相談窓口への期待が高い。その他、女性は子育てや介護など生活に身近な支援、男性は若者向け事業や学習機会、情報発信への関心が相対的に高い傾向が見られる。全体として多様な市民が関わりやすい拠点機能に期待が集まっていることがうかがえる。

(6) 市政(市の役割)について

市の施策に対する評価

本編:P45



市の男女共同参画施策への評価は「どちらとも言えない」が多い。一方で、保育・介護分野では「良い」「悪い」の双方が他項目より多く、評価が分かれているものの、強い否定的評価は限定的である。施策に対する理解や実感にはばらつきが見られ、分野を問わず、取組の内容や成果が市民に分かりやすく伝わっているとは言えない状況が見て取れる。

(その他) 自由意見について (抜粋)

自由意見は171件であった。主な内容は以下のとおり。

男女平等に関する意識について

- 1 男女を理由にした差別はなくすべきだが、性別による能力差や個人差を無視した一律の平等には違和感がある。能力や適性を尊重した公平な評価が必要だ。
- 2 固定的な性別役割分担が根強く残っているため、制度や慣行の見直しが必要。一人ひとりの意思と生き方が尊重される社会を期待している。
- 3 固定的性別役割分担意識を変えるのは難しいため、子どもの頃からの教育で男女平等の意識を育てることが重要だ。

家庭生活・地域活動について

- 1 地域活動への参加者が固定化しており、声をかけやすい人に偏りがち。多様な人が関われるよう市の後押しを望む。
- 2 子育て世代を支えることは大切だが、そのフォローを担う独身者や子どものいない人への配慮も必要だと思う。

仕事・職業について

- 1 管理職が男性に偏っている現状を改善し、女性が管理職になりやすい環境整備を求める。
- 2 シニア世代の働く場を増やし、年齢に関わらず社会参加できる仕組みを求める。
- 3 地方の実情に合わないフルタイム中心の働き方を改め、事情に応じた働き方を認めてほしい。

ワーク・ライフ・バランスについて

- 1 男性の家事・育児参加や定時退社を進め、家庭生活との両立を後押ししてほしい。
- 2 平等を追求しすぎて一部の人に負担が集中しないよう、バランスの取れた施策を求める。

(その他) 自由意見について (抜粋)

自由意見は171件であった。主な内容は以下のとおり。

相談・支援ニーズについて

- 1 困ったときに気軽に相談できる窓口が分かりにくい。市報以外の方法での周知が必要ではないか。
- 2 平日昼間だけでなく、休日や夜間も相談できる体制を求める。
- 3 職場や家庭の悩みを安心して相談できる、プライバシー保護の観点から信頼性の高い相談体制を望む。

市政について

- 1 男女共同参画計画や施策の内容が市民に伝わっていない。目的や成果を分かりやすく示すべきだ。
- 2 市役所の対応が画一的で柔軟性に欠けるように感じる。市民目線の改善を求める。
- 3 開かれた市政と積極的な情報公開により、市民の信頼を高めてほしい。

その他

- 1 多様な価値観を認めつつ、誰かが過度に苦しむことのない社会づくりを期待する。
- 2 性別に限らず、誰もが住みやすく安心して暮らせる「やさしい日立市」を望む。
- 3 数値目標だけにとらわれず、地域の実情に合った取組を進めるべきだ。形だけの施策ではなく、実効性のある支援を望む。
- 4 それぞれが身近なところからできる取組を積み重ねることが大切だと感じる。